
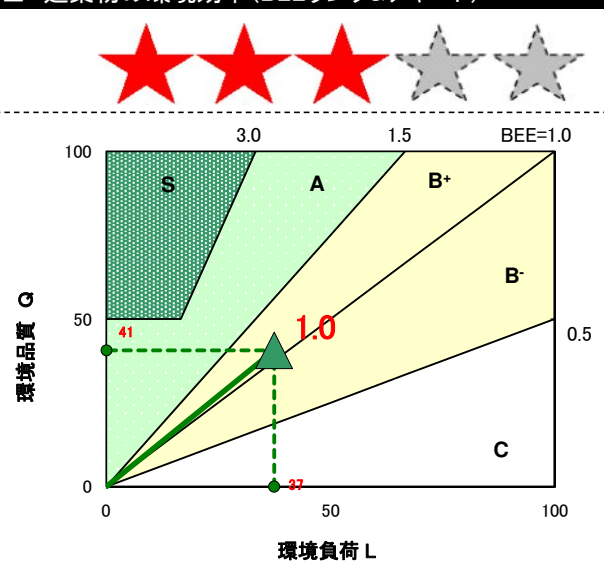


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	(仮称)新益城工場建設プロジェクト	階数	地上1階	 <p>【外観図】シートへ貼り付けてください。</p>
建設地	熊本県上益城郡益城町大字小谷字	構造	S造	
用途地域等	市街化調整区域	平均居住人員	300 人	
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	3,180 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2024年12月 予定	評価の実施日	2024年10月8日	
敷地面積	40,000 m ²	作成者	栗原寿樹矢	
建築面積	4,348 m ²	確認日	2024年10月15日	
延床面積	3,933 m ²	確認者	定森淳一	

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 G

環境負荷 L


BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

82%

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点
		74
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	83.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	53.7
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	70.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	76.5

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新益城工場建設プロジェクト	階数	地上1階
建設地	熊本県上益城郡益城町大字小谷字	構造	S造
用途地域等	市街化調整区域	平均居住人員	300 人
省エネ・地域区分	6地域	年間使用時間	3,180 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年12月 予定	評価の実施日	2024年10月8日
敷地面積	40,000 m ²	作成者	栗原寿樹矢
建築面積	4,348 m ²	確認日	2024年10月15日
延床面積	3,933 m ²	確認者	定森淳一



シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ BEE=1.0 C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 74

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現
83.7	#### #####
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	重点事項4: 循環型社会の実現
70.0	76.5

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									2.6
Q1 室内環境					0.30		-		3.1
1 音環境				3.0	0.15	-	-		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	-	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				2.6	0.35	-	-		2.6
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-		3.3
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-		
1 昼光率		2.5% ≤ 昼光率		5.0	0.60	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.7	0.25	-	-		3.7
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		建物ほぼ全面にF☆☆☆☆採用		4.0	1.00	-	-		
4.2 換気				3.0	0.30	-	-		
1 換気量				3.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能				3.0	0.50	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		建物内に喫煙ブースを設けていない		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		2.9
1 機能性				2.2	0.40	-	-		2.2
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	-	-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				2.3	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				3.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				2.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				2.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-		3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.2	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		揺れを抑える装置を導入し、部分的に地震時・強風時の内部設備保護が図られている		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				4.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		住宅の品質確保の促進に関する法律における木材、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準で、等級2相当		4.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高3.9m以上		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1		5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.65		4.5	0.63	-	-	4.5
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水コマなどに加えて、省水型機器(例えば擬音、節水型便器など)などを用いている		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用及び再利用できるユニット部材を用いている		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	フロンを用いた断熱材等を使用していない		5.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率82%		3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの取扱いのチェックリストの一部を満たし、広告物照明を行っていない		4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

建物名称 (仮称)新益城工場建設プロジェクト

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		74
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				83.7	0.40	33.48
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.10			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.5	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				53.7	0.20	10.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

(仮称)新益城工場建設プロジェクト

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	高い断熱性能を確保して、快適な居住空間を創出するとともに、建物の長寿命化や地球環境にも配慮した計画	
Q1 室内環境	使用建材全てにF☆☆☆☆製品を使用し、かつ高い昼光率を確保している	
Q2 サービス性能	ゆとりのある階高と空間の自由さを確保し、設備やプランニングの自由度が極めて高い	
Q3 室外環境 (敷地内)	特になし	
LR1 エネルギー	LED照明設備など高効率設備により省エネルギー性に配慮している	
LR2 資源・マテリアル	建物の節水性に配慮している	
LR3 敷地外環境	消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮している	
その他		

■ 建築物環境配慮制度における配慮項目の設計仕様の入力表 **(新築)** 【提出区分】 ◎: 設計概要が記載された添付図書の提出が必須である項目(評価対象外の項目は除く。)

★: 添付図書の提出により高得点(3点超)となる項目(添付図書の提出: 高得点の場合は必須)
▲: 評価時に仕様確定が困難であり、想定により評価する項目(添付図書の提出: 任意)

CASBEI 熊本《新築》2017年版 (仮称)新築竣工補償プロジェクト	評価対象用途※3	評価対象外 (適用条件の詳細は「評価マニュアル」を参照)							評価点※1 【スコア】シートでの入力値		配慮項目の設計概要※2		配慮項目の設計概要を確認するための添付図書				
		事	学	物	飲	会	工	病	ホ	住	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	整合確認	提出区分	※提出する添付図書(マニュアルI-17~19参照)に設計概要が記載されている場合は、その添付図書の名称等を、提出区分に係わらず、記入してください。(設計概要を記載した添付図書がない場合は記入不要) ※添付図書の提出区分は、表上のコメントを参照してください。	整合確認	
																	事
スコアシート 実施設計段階	評価マニュアルページ																
配慮項目																	
Q 建築物の環境品質																	
Q1 室内環境																	
1 音環境																	
1.1 室内騒音レベル	III-3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
1.2 遮音																	
1 開口部遮音性能	III-6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 界壁遮音性能	III-7	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	III-8	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	III-9	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
1.3 吸音	III-11	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 温熱環境																	
2.1 室温制御																	
1 室温	III-12	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 外皮性能	III-14	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 ゾーン別制御性	III-19	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2.2 湿度制御	III-20	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2.3 空調方式	III-22	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 光・視環境																	
3.1 昼光利用																	
1 昼光率	III-24	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 方位別開口	III-27	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 昼光利用設備	III-28	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3.2 グレア対策																	
1 昼光制御	III-29	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3.3 照度	III-30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3.4 照明制御	III-32	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4 空気質環境																	
4.1 発生源対策																	
1 化学汚染物質	III-33	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4.2 換気																	
1 換気量	III-35	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 自然換気性能	III-36	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 取り入れ外気への配慮	III-38	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
4.3 運用管理																	
1 CO ₂ の監視	III-40	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 喫煙の制御	III-41	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
Q2 サービス性能																	
1 機能性																	
1.1 機能性・使いやすさ																	
1 広さ・収納性	III-42	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
2 高度情報通信設備対応	III-43	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
3 バリアフリー計画	III-44	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
1.2 心理性・快適性																	

以下の該当する項目について、必要事項を記入してください。
(必要に応じて、行間隔を広げて利用してください。)

※記入例を掲載していますので、記入例を消去してから記入してください。

【提出区分】 ◎: 設計概要が記載された添付図書の提出が必須である項目(評価対象外の項目は除く。) ■ 建築物環境配慮制度における配慮項目の設計仕様の入力表 **(新築)**

★: 添付図書の提出により高得点(3点超)となる項目(添付図書の提出: 高得点の場合は必須) ▲: 評価時に仕様確定が困難であり、想定により評価する項目(添付図書の提出: 任意)

CASBEE 熊本《新築》2017年版 (仮称)新築緑工種建設プロジェクト			評価対象用途 ^{※3}	評価対象外 (適用条件の詳細は「評価マニュアル」を参照)	評価点 ^{※1}		配慮項目の設計概要 ^{※2}	配慮項目の設計概要を確認するための添付図書										
スコアシート 実施設計段階					建物を	住居・宿泊部分	評価対象項目は、仕様等の設計概要を記入してください。 (※仕様等が不明な場合は、不明である旨を記入してください。)	提出区分	※提出する添付図書(マニュアルI-17~19参照)に記載されている場合は、その添付図書の名称等を、提出区分に係わらず、記入してください。(設計概要を記載した添付図書がない場合は記入不要) ※添付図書の提出区分は、表上のコメントを参照してください。									
配慮項目			評価マニュアルページ	事	学	物	飲	会	工	病	ホ	住	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	以下の該当する項目について、必要事項を記入してください。 (必要に応じて、行間隔を広げて利用してください。)			
1	1	広さ感・景觀	III-45	◎	◎	◎	◎	-	◎	●	●	●	3.0	-				
	2	リフレッシュスペース	III-46	◎	-	◎	-	-	◎	-	-	-	3.0	-				
	3	内装計画	III-47	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	1.0	-				
1.3	維持管理												2.0	-				
	1	維持管理に配慮した設計	III-48	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2.0	-				
	2	維持管理用機能の確保	III-50	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2.0	-				
2	耐用性・信頼性												3.2	-				
	2.1	耐震・免震・制震・制振												3.2	-			
	1	耐震性(建物の壊れにくさ)	III-55	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0	-				
	2	免震・制振性能・制振性能	III-56	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	4.0	-	揺れを抑える装置を導入し、部分的に地震時・強風時の内部設備保護が図られている	★	高得点項目に関する図書参照	
	2.2 部品・部材の耐用年数												3.6	-				
	1	躯体材料の耐用年数	III-57	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	4.0	-	住宅の品質確保の促進に関する法律における木材、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準で、等級2相当	★	高得点項目に関する図書参照	
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	III-58	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0	-				
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	III-58	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0	-				
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	III-59	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0	-				
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	III-59	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	5.0	-				
	6	主要設備機器の更新必要間隔	III-61	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0	-	主要用途工種の種別、Fは不適用	★	高得点項目に関する図書参照	

■建築物環境配慮制度における配慮項目の設計仕様の入力表 **《新築》** 【提出区分】 ◎:設計概要が記載された添付図書の提出が必須である項目(評価対象外の項目は除く。)

★:添付図書の提出により高得点(3点超)となる項目(添付図書の提出:高得点の場合は必須)
▲:評価時に仕様確定が困難であり、想定により評価する項目(添付図書の提出:任意)

CASBEE 熊本《新築》2017年版 (仮称)新築竣工補設プロジェクト		評価対象用途 ^{※3}								評価点 ^{※1}		配慮項目の設計概要 ^{※2}		配慮項目の設計概要を確認するための添付図書					
スコアシート	実施設計段階	評価 マニュアル ページ	事	学	物	飲	会	工	病	ホ	住	建物全体・ 共用部分	住居・宿泊 部分	評価対象項目は、仕様等の 設計概要を記入してください。 (※仕様等が不明な場合は、 不明である旨を記入してください。)	整合 確認	提出 区分	※提出する添付図書(マニュアル1-17~19参照)に設計概要が記載さ れている場合は、その添付図書の名称等を、提出区分に係わらず、記入 してください。(設計概要を記載した添付図書がない場合は記入不要) ※添付図書の提出区分は、表上のコメントを参照してください。	整合 確認	
配慮項目	評価対象外 (適用条件の詳細は「評価マニュアル」を参照)																		以下の該当する項目について、必要事項を記入してください。 (必要に応じて、行間隔を広げて利用してください。)
2.4 信頼性												3.0							
1	空調・換気設備	III-62	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
2	給排水・衛生設備	III-63	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
3	電気設備	III-64	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
4	機械・配管支持方法	III-65	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
5	通信・情報設備	III-66	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
3 対応性・更新性												3.6							
3.1 空間のゆとり												5.0							
1	階高のゆとり	III-67	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	5.0							
2	空間の形状・自由さ	III-68	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	5.0							
3.2 荷重のゆとり												3.0							
3.3 設備の更新性												3.0							
1	空調配管の更新性	III-72	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
2	給排水管の更新性	III-73	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
3	電気配線の更新性	III-75	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
4	通信配線の更新性	III-75	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
5	設備機器の更新性	III-75	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
6	バックアップスペースの確保	III-76	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
Q3 室外環境(敷地内)												-							
1	生物環境の保全と創出	III-77	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	2.0							
2 まちなみ・景観への配慮												2.0							
3 地域性・アメニティへの配慮												2.0							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上												2.0							
3.2 敷地内温熱環境の向上												2.0							
LR 建築物の環境負荷低減性												-							
LR1 エネルギー												-							
1	建物外皮の熱負荷抑制	III-95	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-							
2	自然エネルギー利用	III-98	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
3 設備システムの高効率化												4.5							
4 効率的運用												3.0							
集合住宅以外の評価												3.0							
4.1	モニタリング	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
4.2	運用管理体制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							
集合住宅の評価												-							
4.1	モニタリング	#####	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-							
4.2	運用管理体制	#####	-	-	-	-	-	-	-	-	◎	-							
LR2 資源・マテリアル												-							
1 水資源保護												3.4							
1.1 節水												4.0							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用												3.0							
1	雨水利用システム導入の有無	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	3.0							

■ 建築物環境配慮制度における配慮項目の設計仕様の入力表 **《新築》** 【提出区分】 ◎: 設計概要が記載された添付図書の提出が必須である項目(評価対象外の項目は除く。)

★: 添付図書の提出により高得点(3点超)となる項目(添付図書の提出: 高得点の場合は必須)
▲: 評価時に仕様確定が困難であり、想定により評価する項目(添付図書の提出: 任意)

CASBEE 熊本《新築》2017年版 (仮称)新築竣工確認プロジェクト		評価対象用途 ^{※3}							評価対象外 (適用条件の詳細は「評価マニュアル」を参照)	評価点 ^{※1} 【スコア】シートでの入力値		配慮項目の設計概要 ^{※2}		配慮項目の設計概要を確認するための添付図書						
スコアシート	実施設計段階	評価 マニュアル ページ	事	学	物	飲	会	工		病	ホ	住	建物全体・ 共用部分	住居・宿泊 部分	評価対象項目は、仕様等の 設計概要を記入してください。 (※仕様等が不明な場合は、 不明である旨を記入してください。)	整合 確認	提出 区分	※提出する添付図書(マニュアル1-17~19参照)に設計概要が記載され ている場合は、その添付図書の名称等を、提出区分に係わず、記入 してください。(設計概要を記載した添付図書がない場合は記入不要) ※添付図書の提出区分は、表上のコメントを参照してください。	整合 確認	
以下の該当する項目について、必要事項を記入してください。 (必要に応じて、行間隔を広げて利用してください。)																				
2	2	雑排水等利用システム導入の有無	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	延べ面積2,000㎡未満の小規模建築の場合	3.0	-			
2		非再生性資源の使用量削減	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	延べ面積2,000㎡未満の小規模建築の場合	2.9	-			
2.1		材料使用量の削減	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	主要構造部が木造躯体の場合	3.0	-			
2.2		既存建築躯体等の継続使用	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	仮設として建築躯体を再利用している場合	3.0	-			
2.3		躯体材料におけるリサイクル材の使用	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
2.4		躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	1.0	-			
2.5		持続可能な森林から産出された木材	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	木材を使用していない場合	2.0	-			
2.6		部材の再利用可能性向上への取組み	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	5.0	-	★	高得点項目に関する図書参照	
3		汚染物質含有材料の使用回避	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.7	-			
3.1		有害物質を含まない材料の使用	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
3.2		フロン・ハロンの回避	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	4.0	-			
3.2.1		1 消火剤	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	消火設備が全く無い場合、又は スプリンクラーのみの場合	-	-			
3.2.2		2 発泡剤(断熱材等)	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	5.0	-	★	高得点項目に関する図書参照	
3.2.3		3 冷媒	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	冷媒ガスを使用していない場合	3.0	-			
LR3		敷地外環境	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	-	-			
1		地球温暖化への配慮	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.7	-			
2		地域環境への配慮	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	2.9	-			
2.1		2.1 大気汚染防止	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
2.2		2.2 温熱環境悪化の改善	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
2.3		2.3 地域インフラへの負荷抑制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	2.7	-			
2.3.1		1 雨水排水負荷低減	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	雨水流出抑制に関する行政指導がない地域	3.0	-			
2.3.2		2 汚水処理負荷抑制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
2.3.3		3 交通負荷抑制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	2.0	-			
2.3.4		4 廃棄物処理負荷抑制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
3		3 周辺環境への配慮	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.1	-			
3.1		3.1 騒音・振動・悪臭の防止	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
3.1.1		1 騒音	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
3.1.2		2 振動	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	振動規制法に定める特定施設を含まない建物、 又は、大規模小売店舗立地法の規制対象となら ない建物	-	-			
3.1.3		3 悪臭	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	悪臭防止法に定める特定悪臭物質の取り扱い をしない建物	-	-			
3.2		3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
3.2.1		1 風害の抑制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
3.2.2		2 砂塵の抑制	#####	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	学校用途のうち、学校(大学等)の場合	-	-			
3.2.3		3 日照障害の抑制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			
3.3		3.3 光害の抑制	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.7	-			
3.3.1		1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	4.0	-	★	高得点項目に関する図書参照	
3.3.2		2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	#####	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	-	3.0	-			

※1 「評価点」は、CASBEE 評価ツール上の各評価シート(解説Q1~Q3、LR1~LR3)による評価結果と同一となるようにしてください。
 ※2 本欄への記入内容は、本ツール内の「スコアシート」の「環境配慮設計の概要記入欄」に記載した項目等を記入してください。
 ※3 評価対象用途区分 ◎: 建物全体(全用途)、○: 共用部分のみ(病、ホ、住)、●: 住宅・宿泊部分のみ(病、ホ、住)